

ALBERI FESTIVAL 2025 (アルベリ・フェスティバル2025/樹木祭り2025)

Building the city of trees 【樹木の街をつくる】

アルベリ・フェスティバルは、樹木が現代都市の調査、設計、再編成のためのモデル及びツールになり得るという概念をもとにモデナで立ち上げた、樹木に焦点を当てた建築フェスティバルである。

樹木を中心とした視点から都市を眺め、通常の都会的なパラダイムを逆転させることで、人間と自然の関係において前例のないつながり方が可能となり、また、建築において「緑」が単なる美化や実用的なものとする傾向にあることへの対策となる。

このフェスティバルのテーマは、モデナ西部の職人の村(Villaggio Artigiano Modena Ovest)にあるレオナルディ・アーカイブ (Leonardi Archive) に保存されている、チェーザレ・レオナルディ (Cesare Leonardi) とフランカ・スタージ (Franca Stagi) が制作した有名な絵からインスピレーションを受けている。これらの絵は、公園や都市の緑地のデザインを目指して20年間にわたり調査されたもので、その研究は、国際レベルにおけるランドスケープデザインの参考マニュアルである書籍「L'Architettura degli Alberi」(1982年)や、ボスコ・アルベルガーティ (Bosco Albergati) で行われた「樹木の都市 (The City of Trees)」のマニフェスト・プロジェクトに結実した。

レオナルディ・アーカイブは、モデナ西部の職人の村にあるチェーザレ・レオナルディの自宅研究室に保管されており、この地域は都市の経済・社会史を象徴する場所であり、イタリア初の職人村でもある。このアーカイブが、樹木と自然、デザインと職人技、ネットワークとフラクタルを現代のデジタル技術と結び付け得る、広範囲にわたるフェスティバルの中心となる。

フェスティバルは2025年4月7日から13日まで開催され、このために歩行者専用化された職人の村のエリアで行われる。このエリアは、レオナルディ・アーカイブと自宅スタジオを、職人の工房、使用されなくなったスペース、工業用の中庭、新しい「グリーン・ダイアゴナル」とつなげている。「グリーン・ダイアゴナル」は、旧鉄道の跡地に建設された歩行・サイクリング専用の道である。

4つのテーマ(樹木の見方を知る、樹木の変容、樹木の都市、樹木のデザイン)で構成され、基調講演、アーカイブ資料の展示、マルチメディア・インスタレーション、子どもから大人まで楽しめるガイドツアーやワークショップが行われる。

また、市内外のパートナーによるサイド・アクティビティも開催される。

このフェスティバルは、チェーザレ・レオナルディの作品、職人の村、そしてメディアアーツに汚染されたと融合したディアアーツに関するモデナ・ユネスコ創造都市(UCCN)の文化戦略に合致したモデルを構築しており、イタリア国内の他地域や世界中のメディアアーツ都市においても容易に導入できるものである。

レオナルディの樹木に関する研究に海外からの関心が集まったことで、特別にデザインされた巡回展を海外でも実施する可能性がある。なお、初回はモデナ同様にUCCNメディアアーツ都市であるカールスルーエ(ドイツ)にて開催予定。

